

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

徳を備えた人が人の上に立つべき 伊與田 覺 (論語普及会学監)

1. 上に立つ者の重要な仕事の一つに、優れた人物を抜擢してその能力を十分に発揮させることがあります。中国古典「大学」には、「賢を見て挙ぐる能わす、挙げて先んずる能わざるは命なり」とあります。立派な人物を挙げ用い、その能力を十分に発揮させることができないのは、上に立つ者の怠りであるという意味です。さらに、「不善を見て、退くる能わず、退いて遠ざくる能わざるは過ちなり」と続き、人が不善を働くのを見て退けることができなかつたり、退けても遠ざけて関係を断ち切ることができないのは、上に立つ者の過失であります。
2. 人間には、徳と才の両方が大切ですが、徳よりも才に優れた人を小人、才よりも徳に優れた人を君子といます。また、何事も自分中心で行動する人を小人、自分よりも他人を大切にすることを君子と見ることがもできます。「此を国は利を以て利を為さず、義を以て利と為すと請うなり」。目先の利を求め、役に立つからといって小人を用いると、大局的には本当の利を得ることはできません。正しい行為を積み重ねて得られる利こそが本当の利です。義こそが利の本となるのです。
3. 戦後の日本は経済至上主義に傾いたため、本であるべき徳よりも財が重視され、国政にも反映されてきました、人の上に立つ者は、とりわけ国政を担う者はやはり徳を備えた君子であるべきだと私は思います。
(参考:「致知」2012年6月号)

経営者のための理念・哲学

CSRで信頼される企業を構築する

1. 東日本大震災から1年、震災直後、政府や行政の対応が後手後手に回る中、外国メディアなどから「称賛」されたのが日本企業の素早くかつ的確な反応だった。ヤマト運輸は被災自治体の救援物資集積場所から避難所へ物資を輸送する「協力隊」を地域ごとに組織・被災地での後方支援にあたった。
2. 平成11年6月～10月に主要企業を対象にして行った調査では、「義援金・支援金など金銭的な支援を行った」企業は86.9%と9割近くに上り、「社員が現地で支援活動を行った」企業は29.1%に及んだ。企業が自発的に動いたのは、土台があったからだ。以前から企業はCSR(企業の社会的責任)への取り組みを始めていて、8割以上がCSRに関する専門部署・担当者を置く。東北の支社・支店を足場にしたが、本社からの支援体制が整然と構築できたのは、CSRの関連部署が大きな役割を果たしていたからだ。
(参考:「週刊東洋経済」2012年3月17日号)

ワンポイント経営アドバイス

価格訴求型から個店の魅力型へ

1. 東京都羽村市にある食品スーパー、福直屋。酒販店やコンビニエンスストア、青果店を経て1980年に設立した。2011年9月期の売上高は41億円、従業員数360人ほどの中堅スーパーだ。近隣には中堅スーパーが立ち並び、大手食品スーパーが特売攻勢をかける激戦区だが、安売りとは一線を画しつつ、30年以上にわたり黒字経営を続けてきた。
2. その理由は、生産者と顧客を巻き込みながら売り場を磨き上げる、高い「編集力」にある。契約農家や牧場と密に連携し、顧客が求める商品を手頃な価格で仕入れる。その商品力で呼び込んだ顧客を売り場作りに巻き込み、根強いファンにする。価格訴求型の集客に限界を感じ、個店の魅力を高めて顧客を囲い込みたい同業他社や小売りが学ぶ点は多い。
(参考:「日経ビジネス」2012年3月5日号)

古典に学ぶ

小事が大事となる危険を常に想定しておこう

「小事かえって大事となり、大事案外小事となる場合もある」

(解説)「くだらない」と軽んじていたことが、意外な大ごとを引き起こすこともあり、「大ごとだ」と身構えていたことが、意外に大したことなく過ぎ去ることもある。

(参考: 渋澤健「渋沢栄一」100の訓言): 日経ビジネス人文庫